

2007年度 京都大学の環境負荷

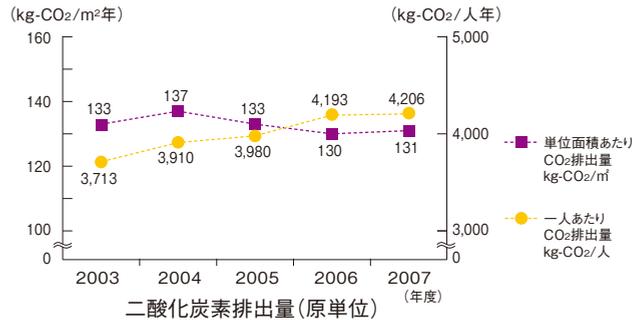
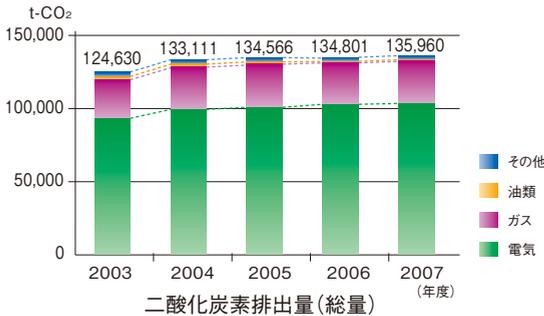
環境負荷情報の
グラフを増やしました。

詳しくは詳細版 20 ページへ HP▶<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/environment/report/index.htm/>

二酸化炭素 (CO₂) 排出量

CO₂排出量(総量)は前年度に比べ増加しました。また、単位面積あたりの排出量も微増し、削減には至りませんでした(2007年度:131kg-CO₂/m²、2006年度:130kg-CO₂/m²)。これは、建物の新築や改修工事が終了し運用が開始されたこと、前年の気温に比べて夏季は高く冬季は低かったことなどが影響していると考えられます。

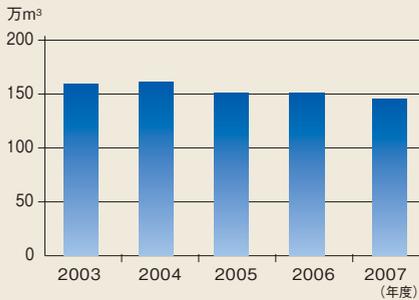
京都大学では、「CO₂排出量を単位面積あたり毎年2%削減」を第一段階の目標としています。CO₂排出量削減のためには構成員の皆さんの環境配慮行動が必要です。まずは本報告書の「いちにいちエコ」を参考に、環境配慮行動に取り組んでください。



水使用量

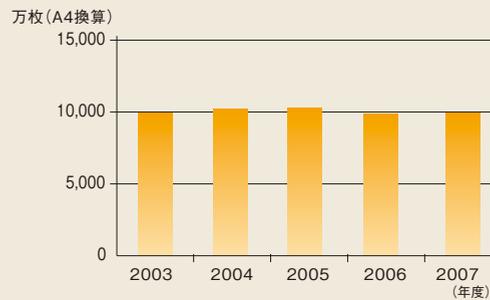
実験機器や建築設備の節水対策が進み、水使用量は減少傾向にあります。今後も適切な水資源管理を継続します。

4.6%減 (総量・2006年比)
4.8%減 (単位面積あたり・2006年比)



コピー用紙購入量

コピー用紙の購入量(総量)は、前年度に比べ増加し9,945万枚(前年度は9,816万枚)でした。一人あたりの購入量は3,076枚(前年度は3,053枚)でした。今後は両面使用の促進やパーレス化により、使用量の削減を図る必要があります。



生活系廃棄物排出量

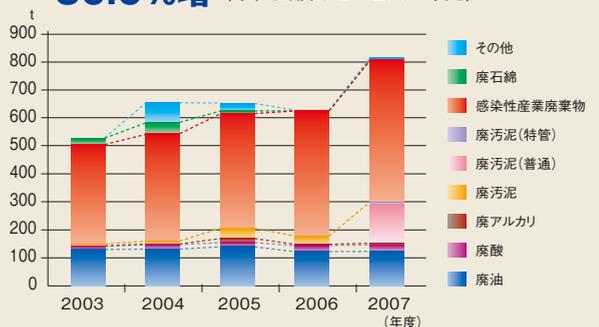
生活系廃棄物の排出量(総量)は前年度に比べ減少しました。総排出量は5,323トン(前年度は5,373トン)で、単位面積あたりの排出量も5.12kg/m²(前年度は5.17kg/m²)に減少しました。さらに排出量の削減を図るとともに、再資源化率の向上にも取り組んでいきます。



実験系/特別管理廃棄物排出量

実験系廃棄物の排出量(総量)は前年度に比べ増加しました。特に調整池の清掃回数が増やしたことによる廃汚泥(普通産業廃棄物)の増加が大きくなっています。

30.0%増 (総量・2006年比)
30.0%増 (単位面積あたり・2006年比)



データの集計範囲

● 対象期間:2003年4月~2008年3月 ● キャンパス:吉田(病院を含む)、宇治、桂、熊取、犬山、平野の6キャンパス
● 床面積:1,040,314m² ● 構成員数:32,329人(2007年5月現在)